

姉妹都市盟約50周年記念事業 小杉放菴展

— 小杉放菴記念日光美術館所蔵作品を中心に —

日光の自然が育んだ 豊かな感性で描かれる多彩な絵画

江戸時代に八王子から日光まで出向し、東照宮の防火と警備の活動をしてきた千人同心が縁となり、姉妹都市となった八王子市と日光市。姉妹都市盟約締結50周年を機に、日光市出身の画家・小杉放菴の作品を所蔵する「小杉放菴記念日光美術館」から「八王子市夢美術館」へ多数の作品がやってきます。近代西洋画や日本画など幅広い分野で活躍した同画伯について、小杉放菴記念日光美術館学芸員の迫内祐司さんにお話を伺いました。

— 今回、どんな作品が日光から八王子へ来るのでしょうか —

小杉放菴が画家として描き続けた60年を一望できる作品がラインナップされます。画壇では油絵の名手として名を馳せた放菴ですが、彼個人がライフワークとして描いていた日本画が今回の展示の主軸です。中国絵画に由来する『南画』（江戸中期以降に発展した水墨画。文人画）に近代的な感覚を取り入れた『新南画』を多く手掛けたことから、私はこっそり放菴を「南画の印象派」と呼んでいます。

— 文筆、スポーツなどにも通じた多才な人だったそうですね —

放菴が絵を描き始めたのは、中学1年を修了して退学後、地元で活躍していた画家・五百城文哉に弟子入りしたのがきっかけです。日露戦争で記者として従軍した経験から、命に対する思いを詩集『陣中詩篇』に記し、帰国後はその戦争で失った青春を取り戻すかのように活発に活動しました。友人たちとテニスに親しむなど、外交的でアクティブな性格だったため、人から好かれ頼りにされることも多く、上京してきた親戚を家に住まわせる面倒見のよい人だったようです。

— 記録によるとかなりの旅好きだったとか。常に新しい題材を求めていたのでしょうか —

旅行先でのスケッチは多く残っていますが、見たままを写し取ったような絵画はあまり残っていません。明治40年の文展油絵部門入賞後にヨーロッパ留学した際も、直接対象を描く洋画の手法に偏るのではなく、むしろ東洋的な表現を好ましく思うようになったという記録が残っています。旅先の風景を表現するにしても、例えば、沖縄で感じた明るい色彩や、中国で目にした大陸らしい山々の形などを作品にさりげなく落とし込んでいます。

— 放菴は頻繁に里帰りしています。彼にとって日光はどのような存在だったのでしょうか —

放菴は奥さんと同郷出身。帰郷のたびにお墓参りに行くなど、家族やご先祖様を大切にしていたようです。また、放菴は自然豊かな日光を愛し、男体山を描いたと思しき絵画は『関東第一山』と題しています。

— 今回は、日光という土地を描いた作品群の展示もありますね —

日光をテーマとした絵画では、『ヨーロッパの画家が日光を訪れて残した絵』、『五百城文哉をはじめとする日

小杉放菴 (1881-1964)

現在の日光市に生まれる。はじめ五百城文哉に洋画を学び、小山正太郎主宰の不同舎に入門して未醒と号する。横山大観らと日本美術院(院展)を再興、洋画部を牽引するが後に春陽会を結成し放菴(放庵)と号する。近代洋画の大家として名を遺すが、その生涯には数多くの日本画を描いた。日本芸術院会員。日光市名誉市民。



— メッセージをお願いします —

公では洋画家（油絵画家）として名の通っている放菴ですが、今回の展示でも大部分を占める日本画が多く遺っているのは、彼の絵画の根っこに関連してるのかもしれない。また、放菴は何と言っても墨の使い方が達人なので、ぜひ筆遣いに着目してみてください。



小杉放菴 東照宮・上神庫 1900年代 紙／水彩
小杉放菴記念日光美術館蔵

インタビュー全編を
ホームページにて
公開中!

掲載しきれなかった
貴重なお話をたっぷり
と読むことができます。
ぜひご覧ください!



姉妹都市盟約50周年記念事業 小杉放菴展

— 小杉放菴記念日光美術館所蔵作品を中心に —
会場：八王子市夢美術館
日程：2024年11月16日(土)～1月26日(日)

▼ イベント情報 ▼

学芸員 迫内さんによるギャラリートーク
会場：夢美術館展示室
日時：2025年1月12日(日)
15時から約1時間
申込不要／無料(ただし観覧料が必要)
※休館日、料金など詳細はホームページをご覧ください。

小杉放菴 列仙屏風 1915(大正4)年 絹本着色 小杉放菴記念日光美術館蔵

